



長尾和宏 (ながお・かずひろ) 医学博士。東京医大卒業後、大阪大第二内科入局。1995年、兵庫県尼崎市で長尾クリニックを開業。外来診療から在宅医療まで「人を診る」総合診療を目指す。この連載が『平成臨終図巻』として単行本化され、好評発売中。関西国際大学客員教授。

野村沙知代さんの死を当連載で書いたのは2017年12月のこと。こんなふうに書きました。

「…それにしても、野村克也さんの憔悴ぶりが気になります。妻に先立たれると急に弱ってしまふのが夫という生き物です。孤独に負けず、元気でいらっしやることを祈ります。それが奥様への最大の供養になると思います」

あれから2年と少し。毎日毎晩、妻・沙知代さんを想い続けている旅立ちだったようです。戦後初の三冠王に輝きながらも、「生涯一捕手」と自ら言い続けた野球界のレジェンド・野村克也さんが2月11日にこの世

毎日毎晩、妻を想い続けての旅立ち

144 野村克也さん



を去りました。享年84。死因は、奥様と同じ虚血性心不全との発表です。入浴中に倒れているのを発見され、救急車で搬送されたそうで、孤独死との報道もあります。

そのため、「息子のカツノリ氏は何をやっているんだ!」というファンの声もあったようですが、どんなに近くに住んでいても入浴死は避けられない場合

が多いですし、そもそも風呂に入っているときは誰もが孤独です。家族を責めるのは筋違いでしょう。

2階のお風呂でお爺ちゃんが亡くなっているのを、1階の家族が丸一日気が付かなかったという私の在宅患者さんもおられました。

高齢者において、入浴中の死亡は珍しいことではありません。俳優の平幹二朗さん(享年82)の入浴死も、以前にこの連載で書きました。

2018年の調査によれば、65歳以上の年間交通事故死が約2600人なのに対し、不慮の溺死は年間約7000人。特に

冬場は、ヒートショック(血圧の変動や致死性の不整脈)が起こりやすいので、要注意です。高齢者は、自宅で溺れているのです。冬の入浴の際は、以下、5つのことに注意してください。

① 外の気温が高い時間帯に入浴しましょう。

② あらかじめ、脱衣所も温かくしておきましょう。

③ いきなり湯船に入らずにシャワーや掛湯で徐々に体を温めて。

④ 飲酒後の入浴は避けましょう。

⑤ お湯の温度は41度以下。入浴時間は10分以下を目安に。

先週放送のNHK『クロースアップ現代』の追悼で、野村さんはこんなことを仰っていました。

「女房がいなくなつて初めて分かるね。弱さが。男の弱さ。それを痛切に感じて毎日生きてます」

「妻が亡くなったとき握っていた右手の温もり。まだ離れないよ」

「おかえりつて声がかかるとかからないのじゃ、全然違うね」

天国の入り口で、克也さんは沙知代さんに、「おかえりなさい」と抱きしめられたのではないのでしょうか。「生涯一捕手」は、「生涯愛妻家」でもありました。